日清戦争
大流行
大全
新歌
富士
万歳
海軍歌
トコヤンレ
ヤンレ

特63
343

# 日清事件 大當新歌大全序

イヤ是れは名倉昭文館の御主人。定めて今日は日清事件諸藝大全の後編御督促で御座やせう……御尤々々承れば初編は既に再版のも のまで品切れだとうで此間も小生の友人が申すに……君み大變ナお手柄だと名倉の日清事件諸藝大全は非常も非常も大非常の大當りで三度目の再版が品切れといふのだから定めて君の懐ろも大當りだちう抔と洽かして居やしたから必らず後編もお急きだらうと實は少収着手かけやしたが御承知の通り朝日新聞の小説を書て居た癖が在つてツイ一二枚原稿を書くと直く息繼ぎに一盃といふ癖が出るのでツイ〳〵今日迄延引しやしたイヤ屹度急に着手事に致しやす……

ヘン〳〵成程落語家の唄ふて居らるゝものに面白いものが澤山ある
から夫れを加へて編輯して呉れろとイヤ御尤々々實は小生も大の落
語好で二三日前も法善寺の金澤席へ飛込やしたが枝雀丈の万歳。梅
枝丈のチッペケペ。扇枝丈のキンライ〳〵抔は實に面白く出來て居
やしたから。早速同丈蓮に計つて差支なくば加へる事に致やす……
……ナニ今度の題號は何んとしたらよかろと……左樣です子ヘエー
コーッ……ウン左樣だ。幸い曩の諸藝大全が非常の大當りだつた
から今度も大當りの延喜を祝して「日清事件大當新歌大全」と號ては
如何です。表紙の石盤も支那の艦体に我か砲撃の大當りに當つて居
る所を摺らせて。出版の上は大砲の音のドン〳〵賣出しする抔も延



喜の一ッでせうと胡麻摺流に數言立て漸々編輯の延引を詫入。落語
家諸子の助勢を頼んでやつと二三日間に編輯たは則はち本編曩の初
編の御愛讀に引繼ぎ日本は勝て否な一本は買つて大捷を祝し給はん
事を乞ふ

雨廼家狸遊誌

日清事件

# 大當新歌大全目錄


●日清の萬歲　桂枝雀
●日清のチッペケペ　桂梅枝
●日清の十二月
●日清のキンライ〳〵節　桂扇枝
●平壤一戰の大津畫　曾呂利新左衛門
●帝國萬歲梅の春　桂扇枝
●日清の越後獅子三段かへし　●日清の我もの
●日清の紀伊の國　●日清の十日戎
●日清の夕ぐれ、　●日清城の馬場





●日清の權兵衛が種蒔　●日清のトコトンヤレ節
●日清のかいわんじ節　●日清のドン〳〵節
●日清のおまへはまち〳〵　●日清のシヨンガイナ節
●日清のカツポレ節　●日清の愉快節
●日清のノンノコサイ〳〵節　●日清のヨカチヨロ節
●日清のシンカラ節　●日清の本田節
●日清の丹後節　●日清の推量節
●日清のチヨンコ節　●日清のトメヨナラ節
●日清のヤッツケロ節　●日清のトコシヨイ節
●日清の落語　●日清の二〇加

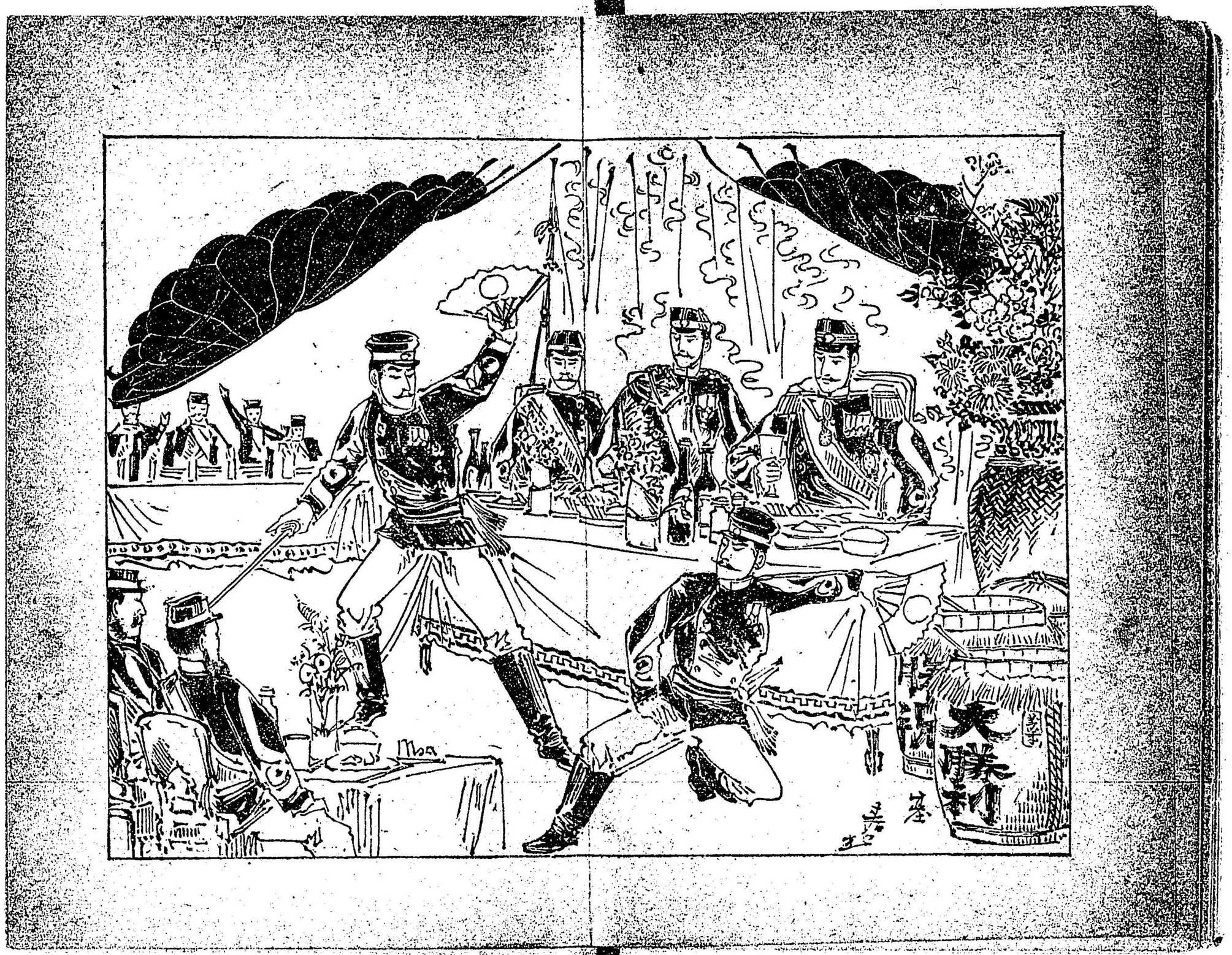
●日清の狂言　●日清支那だら經
●日清のヤンレ節　●日清おか支那軍歌
●日清の劍舞　●日清の詩集
●日清の書探



日清事件 大當新歌大全目錄 終

●日清の狂言　●日清支那だら節
●日清のヤンレ節　●日清おかか支那軍歌
●日清の飯舞　●日清の詩集
●日清の書探

# 日清戦争大流行新歌大全目録終


大勝利

日清事件

# 大當新歌大全

## 日清の萬歲

皇國の御安体を。願く榮へます。大勝利なりける日章を。
押し立て揮く旗の手を。見るも勇ましし。清國兵を拂ふて。かためけるは。まことに例然に勝敗わかる(合の手)京城の司は大院君に。大流公事(清國李鴻章逃げて居る)。日の本盛ん。陸軍も繰り出す。海軍も初戰。豐島に安々討鎭清艦を沖中へ(合の手)水雷火立派。砲彈の勢ひで打出す我國の艦体無事と祝はれたまふ。勝聲あげてぞ樂隊ではやすはまことに美事な大捷利得る(合の手)ヤレ破るソレ破る平壤四方から打破る。討たる敵兵は敵知れず。大砲小銃。武器の道具も。狼狽騷で。皆置て逃るやら。旗捨て拜やらサホウキもエジヤ

ウキも。コラ叶はんと旗卷やら。何んなく我手に略取する。其所に打倒れるチャン〳〵坊子見たれば。死んだも多い。あらい怪我もあり。俘虜豚尾も數多あり(合の手)實日の丸の勢い盛ん。いよ〳〵戰場で働き〳〵軍人手柄。忽地に報知電報打つ。新聞屋は號外摺て早速皆配る。御國の萬歳と平民も喜ぶ家々國旗立て帝國の御威勢とどつさり〳〵〳〵〳〵祝ふ(合の手)海軍もまた勝利。牙山では分捕する。平壤では略取する。どうでも斯うでも。我國の强軍を現はしてこれぞ目出度けれ

## ◉日清のヲツペケペ

桂梅枝新作

●日々の號外日清事件。傍で見た樣な噂するヲツペケペ〳〵ポペツポウー

少々遲れた咄だが。戰爭事件に附屬して。東の芝居も日清だ。南の興行も日清だ。無暗に日清〳〵と。東西南北わからない。東西續さにお聞なさい。市中で有名の東西屋。栗丸馬上で號令かけ。皇國勝利の勝栗だ。御國の爲ならお買なさい。無理にはお進めヲさない。皇國大事と思ふならサア御買なさい。聞くより市中の諸君達。虫入栗喰て吐出して。强氣に勝栗味がよい。なんど、其塲の負惜しみ。

おかしいね。ヲツペケペ

ぱん〳〵鉄砲の看板は。俄も芝居も講釋も。皇國勝利の日本隊。勇しき大砲の行遊い。見るより勇氣に乘りが來て。初物好の諸君達爺樣も婆樣も若嫁もソラ行く日本の大勝利とはいつて見たればコハいかに。なんだかさつぱり譯らない。チャン〳〵坊主の身代りに。二錢の木戸錢いけどられ。大きな鉄砲でだまされた。新聞讀む方が勇

ましい。むやみに進んだ日本隊。チヤン〳〵坊主のかばちや野良。幾万人とも生捕つて御船で日本へ贈るなら極月末には大勝利。冬至に南京安からう。其所等て日本の人民も。倭魂あらはして。家別に南京かみこなし。お尻の鉄砲でヤッツケロかばちやの屁には恐るゝな日本は武運におとらない狙ひは、つさぬテッポポー

## ◉日清の十二月

◉ポン〳〵敵づ打つ彈丸の。小銃はなてば小氣味よいぞや。皆な打ちはじめ。一ッ我兵の鬪をつくれば。弱い支那兵は。直ぐ打ちまけ。お辭義申すと平に誤り。兵器分捕かアず〳〵。涙路蹴立て進みよすれば。心ろうき〳〵ッイ押寄せて。じつと敵き路に忍び寄つゝ。打つも攻めるも旗の指揮で。調子揃へて音もドンドと打つて沈めりや。



火の火をあけて。こたへかねつゝ、引く艦体は。ろれてながれて水も淺瀬にのふ乗りあげて。亦も負けては恥かしろうに。避けて未明の霧にかくるゝ、太孤の沖よ。何所へ潜んだ恥を思はゝ。サア來いサ來いと呼べと探せと。更にふつッり音もなければ船足も見せず。所々の磯邊に流れよりつゝ。初度にこりてか。是所や彼所に皆逃歩行。陸にあがつてあたりきよろ〳〵。○またもズドンと息も絶えソナ音に驚き。聞くも弱身の耳にひゝきて降參願ふ。勝に勇みし我兵の軍は同勢揃へて軍旗押立。打つや進むやドット襲ふて。三方四方に智略を配ばり。引くをやらじと止めてさゝゆりや。皆眞青に哀願す。捨て逃げるは鋒鎗抔よ。殊に余分は金魂數箱。勝つた賞詞は位階增進牛肉玉子で。勢を附けては皆祝ひや。記する新聞も時に經れての繁忙沙汰よ。向ひ隣りも戸毎々々に。國旗出せとよ。これで平壌も黄

海附近も。通路うしなう豚時さ。扨もたのしは。血氣盛りの。氣勢兵士は。支那大軍も。ドット碎せば。いざよいきみとまた攻めかゝる二度目の軍機。これも成就速達と。強い剛いの聲を聞く上へ。心ろ急きてやチャン〳〵潜身て。運の盡きしと。逃けて仕舞へば皆生捕は。髪を切らして髪なし坊子。生捕引立大人も小兒もお御堂の明地。五十も六十も。置てもらつば。ホンに寛仁。グニヤとしはれて涙だふき〳〵泣いて喜ぶ清人ばらよ。妻子殘して身は生け捕られ。俘虜とはなれど音に聞へし好良國に。護送せられて捕虜客とて湯浴身形を注意させるや仁義國。夫れにや引かへ本の戰地は。早や負け軍。北京四方の壘を拔れて負けの數々三百六十億万偏と一二三余

## ◉日清のキンライ〳〵節

桂扇枝新作



●金玉均氏か。暗殺されたがもといとなりて。支那と日本が軍さする。キヒシ。ダンパン。意外。奔走。東學黨の紛亂で。朝鮮万々兵亂開の○○○○のキンライ〳〵援挨代理じやおまへんか

●水雷火伏せて詠むりや。算用か違て。味噌を附たる海洋島。チャン〳〵狼狽。逃げる。軍艦四艘沈めます。一艘は燒捨乘組員は殘らす死んだじやおまへんか勳章とられて李鴻章もわはらしひじやおまへんか

●平壤で支那が負ければ北京も直さに攻めて取られる負け軍。來たぞ。日本。意外ドン〳〵。十三彈の大鉄炮。チャン〳〵まで〳〵逃けたいわいの宿なしの風來〳〵。氣の毒じやおまへんか

●支那兵がよわりなきすりや。李鴻章も共に。貰いなきずる負け軍斬られ。逃る。痛い。トン死。京城平壤拔取りて。清國敗走かな

わんわいの大分捕の鎭台〳〵。日本勝利じやおまへんか

○

●支那兵イーチ。攻めて戰かや我が兵が勝ちよ。來は豚尾の負け軍さ。斬られ。さん〳〵。痛い。歐打。金箱兵器も皆捨て。チヤン〳〵坊主のかなわんわいと大負のまけ軍。あはらしいじやおまへんか

●李鴻章か。心配顏すりや袁世凱もともに。憂い顏する淺はかなさ。日本。攻める。强い。追つめられたらかなわん子。夫れじやによつて剛いわいなと北京政府の狼狽〳〵。あわれ至極じやないかいな

●水雷火。伏せて進めば。我兵に打れ。むだにろれゆく不甲斐なさ規律。立ぬ、遺憾。至極。水雷破裂も皆なすかでチヤン〳〵艦隊海軍負けの大馬鹿の艦隊退。青い顏やおまへんか

●清國を。攻めて進んで。北京を拔て。土地を奪ふ。償を取る。氣味よい。サア〳〵。愉快。剛だ。金融ゆたかに賑ふてスチヤン數財大祝いの。大うかれの鎭臺さん。いさましいじやおまへんか

●朝鮮を。獨り立せて。改革させて。弊を改たむ日本國。進む。開化。自大。固る。金玉均黨の世になつて。閔泳駿等のヘコチヤン談の大ベケのペケ黨々。あたりまへじやおまへんか

## ◎平壤一戰の大津畫

曾呂利新左衛門作

●日本帝國の萬歲と。となゆる南瓜唐芥子を。朝鮮平壤へどつさりと。遠が蒸氣で積んで來て。一ト市振りて李にせんと搏へ相手を待所へ是を〇〇か見たおせば。とつこいまけぬとあらろへと清國は日本の勢ひに恐れたか。一萬四千の南京を唯一戰にまけるとは安い支那

## ◎帝國全勝 梅の春

桂扇枝作

●我が勝利見えてあるのに清國兵め。軍さあるたびしくじりて（合の手）海軍も陸地も皆コロリ。支那國よわい其癖に。余程慾ばり韓國を。他から取るはづ。はづされて。よい。はじさらす李鴻章が。袁世凱も遁亡して。（合の手）旗の日の丸輝かす。牙山間もなく討ち倒し。降参さして生捕らば。武威もけわしき我兵の。勢い込みし働きで。ホンニ勇まし勝の旗。敵は平壌も破らるゝ。續く敗走でエー逃げて行く（合の手）清兵かず〳〵。まけを得て。艦体燒くやら皆な船沈む。水雷火手違い。チャン〳〵騒動。我國光りの時を得て。分捕其所に積上げて。祝せる萬歳日の本は榮へ國益君の影け勇まし勝つや美事なり。幾度も勝つや祝ふちん

## ◎日清の越後獅子三段かへし

●打てよ攻めよ。清國豪慢を。捨て顧にや東洋の仇よ。まことに我があだまた國の仇。十分攻めて。償金とつて。國をとつて降参させて。我日の御旗の勢い示し。勝聲をドットあげて。澤山兵器を分捕し。艦の捕獲引歸る。其上金塊も取る。生捕り澤山連れて歸つて。入れた所が御堂の明地。三度目の虎山の死傷は。敵兵數しれず。始終の戰ひに。我が兵の進むと清兵の逃けるにドンチャン大騒ぎ。虎山を越ゆれば敵の土地。進み入る數多の我兵士。攻めて討破ぶつたかはて心地よや。打ち出す小銃ポン〳〵追て行く。强膽に北京に乘込。首尾よく敵兵攻立攻め伏せ。凱歌唱へて日本は大勝利

●逃げよ〳〵。日本勇兵が。攻めりや命が危ふうござる。早よ逃げソレ逃げ兵器を捨て行け。豐島も負軍。牙山も大負平壌もまた負け貴海も負け。たま〳〵むかへば生捕られ。恥をかいて。逐られて。

死もせず。李鴻章怨んで小言いふて愚痴をこぼして果は日本へ降参す。さん〳〵まけて仕舞は北京へ引あげりや。續いて攻められる。こりや叶はんと両手を合して泣出す。いつれ仕舞は償金取られ。國を渡して和ぼく願ふて。笑われて。諸外國まで恥わらはして。其上負債を殖して大閉口。これが則ち豪慢無禮の國の結果と李鴻章自殺して大國亡ふ

## ◎日清の我も の

●我ものと思へばうれし。支那の土地。國の御旗を先に立て。攻めとり行けば日の本の。太刀風強く豚尾泣く。逃くるに早き敵のやつはんにいくぢかないわいな

●我が勝ちと思へば進む。かちはだし。敵の實況をかんかへて。押寄せ行けば不意の擧に。勝闘あげて引揚げる。勝つ身は愉快大勇み實に強いじやないかいナア

## ◎日清の紀伊の國

●清の國腰なしばちの支那方に。堅く守るは盛字軍。此方は十分大勝利。扨開戦に至りては。彈丸雨め降して戦ふて。支那兵をドン〳〵追い逃す。勝のは日兵。皆み強い。頼めば助ける君子國。さしづめ今宵は勝祝い(ドン〳〵はやして大祝)またもや負かした。負け〳〵續で。負け兵か。命を失ふて。困りはてたる支那のざま

## ◎日清の十日戎

●支那の李鴻章の臭怯者は。恥辱を取り〳〵世に鳴らし。夫れでも

ゑちばるまけおしみ。終りは北京で倒れ死す。我兵は勝得て皆祝し

## ◎日清の夕ぐれ

●黄海に。ならび爭ふ大軍さ。強い日本の勝軍さ。火あげた艦が見へるぞへ。アレまけて泣く支那水士。皆な我全勝になるわいナア

## ◎日清城の馬場

●支那の艦隊が。海洋島で海戰を開く。俄に日本艦隊。進み追いまくる。艦隊支那兵が狼狽騒いで。海へはまるアーゲておくれ。つめたいワイナ

●一度二度なら。まだしも支那は。五度も六度もまけだより

●支那の李鴻章が。日本兵の勇氣に恐れ。俄に天津まで逃げてまいあるく。北京政府は狼狽騒いで堀を造る。壘も造る。おろろしわいな

●一里々々に。天津まで進む。北京降して勝ち軍さ

## ◎日清の權兵衛が種蒔

●清兵が取りまく。我兵が攻め出す。三度に一度も勝たない支那兵豚尾等〳〵〳〵

●平壤の小山の。牡丹臺のかげから。弱卒支那兵が出來戰ふ。三度に一度は追はすばなるまいブンドリ〳〵〳〵

●日兵が打出しや。清兵が逃出す。さん〴〵こつぱいこらさにやなるまい

●北京の都の。街のかげ口。追々日本の兵士が繰り込み今にも戰ひ起るとおろる〻。何かは扨置き逃ずばなるまいションボリ〳〵〳〵

## ◎日清のトコトンヤレぶし

●皆さん〳〵。御門の前にフラフの在るのは何んとやないナトコトンヤレトンヤレトこれは日清戰爭全勝の祝しと知らないかトコトンヤレトンヤレ

●逃さん〳〵。平壤の壘にむらがる支那兵は何万じやトコトンヤレトンヤレトこれは日本兵士の武勇の軍と知らないかトコトンヤレトンヤレ

●賴まん〳〵。何國なんと仲裁するとも賴まないトコトンヤレトンヤレト支那の豪慢不禮を閉口さすまでたのまないトコトンヤレトンヤレト

## ◎日清のかいあんじぶし

●あれ見やしやんせ支那兵が兵器兵糧皆な捨て逃る姿のいくぢなさ

●あれ見やしやんせアノ俘虜砲れ軍服破れ靴これも何故まけ軍さ故

●あれ見やしやんせアノ北京壘夜防禦の大軍はこれも誰故日本兵故

●あれ見やしやんせアノ姿馬上なからの號令は日本將士の勇ましさ

●マア見やしやんせ今の間に北京政府も押寄て支那の領地も奪とる

●皆な祝はんせ勝ち軍さ配る號外二號文字これも御國の光りぞや

## ◎日清のドン〳〵ぶし

●日本兵士の打出す音は。ドン〳〵支那の耳には膽を消す。タイチヨヨカ子ソカ子ードン〳〵

●支那の奴等の大螺聞けば。ドン〳〵濱の松風音ばかり。タイチヨカ子ソカ子ードン〳〵

●かつた〳〵と支那兵のいふは。ドン〳〵危ふかつたと剛かつた。
タイチヨカ子ソカ子ードン〳〵

●海の軍さに艦体捕られ。ドン〳〵山にや金箱までとられ「敗走カ
子損カ子ー損々

●日本諸軍の進むは早い。ドン〳〵今に北京も追いまくる。「大捷カ
子惣かちードン〳〵

◎日清のおまへはまちー〳〵

●我兵はたちまち勝軍。勝ち進む。何万支那兵が來たとても。ろり
やかなやせぬ勝たりやせぬ

●おまへは支那の李鴻章。怜悧でも勳章取れて泣いた迚。こちやか
まやせぬかまやせぬ

●追はへば逃る支那の兵。逃げたとて。仕舞は我手に生捕れ皆な平
伏す平伏す

●思へば憎い支那の所置。朝鮮を属國なんど、いふたとてこちや承
知せぬ承知せぬ

●遲いか早い支那の國。攻取つて降参さ、ねば止みはせぬこちや止
みはせぬ引はせぬ

◎日清のションガイナぶし

●エヽエーションガイナ〳〵。ションガ支那兵は筒先揃へて。痩せ
た駄馬に鎗長刀の大仕がけ「打つて進めどナア。腰もない。エヽエ
ー手向いヨーせずに惣勢は逃げー

●エヽエーションガイナ〳〵。ションガ我兵勇氣な我兵で。逃げた

チヤン〳〵坊子は尙兵を進め。「敵よこちらむけナ。我が腕を。エ、エー見せてやろかいナ。夫れす、めー

●エ、エーションガイナ〳〵。ションガ俘虜は今は漸々と所々にかたより今や命はなかりしか。「引けば引る、ナア。珠數繋ぎ。エ、エーていちやうの扱ひに。存命さア

## ◉日清のカツポレ節

●沖の。海洋島に。白旗がア見ゆる。ヤレコノサアレハ清國のヤレコノコレハノサ降參船ートナ一チ負けニまけ三負て四まけて五まけて恥をかいて。艦を取られて火をあげて「あまり弱さにあまり弱さに逃る氣で走りや。淺瀨の乘りあげて尙まけるコノ何んでもセー「敗戰じや敗軍じや。翌日は未明の闇がりに霧にまぎれて一寸逃ける。

逃けたアー逃げた噂がかくれない。押寄の日本兵の强氣はおろろしいこの何んてもせー

## ◉日清の愉快ぶし

●日清の交渉事件が破烈となりて。宣戰發布の其後は。何の遠慮も支那の國。無禮重なる敵兵に。日本魂現はして。進む軍人勇ましく千辛万苦も厭ひなく。波瀾に上陸其後は。隣國厚義の義兵ぞや。これぞ朝鮮獨立を思ふ　帝意の聖恩ぞ。夫れに引換チヤン〳〵の。袁世凱だの李鴻章は表に厚義を粧ふて。內心利慾の目的を。達せんための底意にや。豚尾頭を撫廻し。國の廣さを鼻にかけ。數の多さを自慢にて。人形同樣の雇兵軍人氣取りでならべても。素より無腰の烏合兵。片端から踏殺し。日本魂揮かし。目にもの見せんと我兵

が。進む心は金鐵ぞ。忠と勇とに身をかため。降り來る彈丸飛越て。敵兵を破る進擊は。恰も猛虎にことならず。名譽輝く其上に。海陸ともに大勝利。凱歌を唱ふ其聲は。天地動かす新日本。皇統萬世の帝國と。朝日の御旗を海外に。宣揚なせし大萬歳愉快〳〵

●牡丹臺から四方の敵地を眺望すれば。殺氣妖雲鬱鬱と。激戰激鬪濟んだ後ち。尙も繰り出す我兵は。勇氣勃々憤然と。朝日の國旗押立て。水口鎭の上流へ進む進軍目覺しく。鴨綠口の大江も。難なく越して對岸の。數百の敵を攻擊し。大砲二門と砲壘を。略取なせし其上に。數多の小銃奪ひ取り。更に進んで行く先きは。九連城と我れ先きに。勇み進んだ勢ひに。チヤン〳〵坊主は狼狽し。恐れおの〳〵支ー那ーの軍。されども我兵は用捨なく。九連城を乘取らば。尙も勢い十倍し。日本男子の健腕と。日本兵士の强勇を。四百余洲に知らさんは。今この時と一聲に。恥を思はん諸兵士は。進めや進め退くな。向かへや向かへ敵兵に。後ろを見せぬ我勇は。諸外國にも知られしぞ。北京の城を拔くまでは。一歩も彼れに用捨すな。北京の城を攻め取らば。償金取つた其上に。國の擔保も談判し。凱歌あげて引き揚げる愉快々々

●廣島大本營より。戰地の模樣を遠望すれば。平壤戰ひ大捷利。黃海々戰亦勝利。敵の臭怯を見る時は。切齒扼腕慷慨す。淸國征伐堂々と。一時に驅取る心地よさ。霹靂一聲電報に。全勝急報亦萬歳愉快々々

●吉野甲板より。敵の諸艦を見下ろす時は。定遠鎭遠眞先きに。我砲擊の命中し。死する海兵幾千ぞ。右往左往に狼狽し。忽地淺瀨に乘りあげて。一時に火を出す艦もあり。避易一層恐懼して。前進後

## ◉日清のノンノコサイ〳節

●悪いチョイ〳〵。慈枯は斬らナキヤならぬ。ノンノコサイ〳〵。
もろく。チョイ〳〵。いわして勝聲をあげる。ノンノコサイ〳〵。シ
テマタサイノサイ

●丸いチョイ〳〵。赤玉は斬ろとて斬れぬ。ノンノコサイ〳〵。元
より。チョイ〳〵。勢いの強い國。ノンノコサイ〳〵。シテマタサ
イノサイ

●憎いチョイ〳〵。チヤン〳〵も捕子になれば。ノンノコサイ〳〵。
命ち。チョイ〳〵。助けて仁慈を加へ。ノンノコサイ〳〵。シテマタ
サイノサイ



●愉快チョイ〳〵。極まる我兵の大捷。ノンノコサイ〳〵やがて。
チョイ〳〵。北京で敵をうつ。ノンノコサイ〳〵。シテマタサイノ
サイ

●四百チョイ〳〵。余州に羽を延す蜻蛉。ノンノコサイ〳〵。今に。
チョイ〳〵。五大洲に威を示す。ノンノコサイ〳〵。シテマタサイ
ノサイ

●支郡のチョイ〳〵。李鴻章は苦しかろ。ノンノコサイ〳〵。内は。
チョイ〳〵。不平で外は敵さ。ノンノコサイ〳〵。シテマタサイノ
サイ

●支那のチョイ〳〵。軍艦は豐島でまけて。ノンノコサイ〳〵。又
も。チョイ〳〵。海洋嶋で敗をとる。ノンノコ敗い〳〵。シテ又敗
の敗

## ◉日清のヨカチヨロ節

●手出し、て見ろ。只置くものか。ばっぱよかちよろ。掴み殺して
城も捕る。ばっぱよかちよろ。すいがすわのはゝで。わしがしっち
よる。しっちよる。いはいでも。しれちよるばっぱ
●我兵進めば。必らず勝利。ばっぱよかちよろ。勝てる筈だよ強い
もの。ばっぱよかちよろ。すいがすわのはゝで。わしかしっちよる。
しっちよる。いはいでも。しれちよるばっぱ
●逃げて見やがれ。逃してなろか。ばっぱよかちよろ。命ちや元よ
り武器もとる。ばっぱよかちよろ。すいがすわのはゝで。わしがし
っちよる。しっちよる。いはいても。しれちよるばっぱ
●合の息つき。飲む日本酒。ばっぱよかちよろ。數度の勝利の祝い
酒。ばっぱよかちよろ。すいがすわのはゝで。わしがしっちよる。

しっちよる。いはいでも。しれちよるばっぱ
●いづれしまいは。日本にまけて。チャン〳〵よわッチョル。國と
取られて恥をかく。サッサヨハッチョル。清の兵がはう〳〵で。我
軍が吉兆で。祝でも立派でばっぱ

## ◉日清のシンカラ節

●支那を攻めるなら。十分懲して攻めしやんせ。支那は卑怯で。奸
惡不賴しやと思はんせ。兵站部で十分兵糧貰ろて。進めば。シンカ
ラ〳〵眞から強い。日本魂いと支那のチャン〳〵坊は競べられない
●平壤戰ひに。敵兵を殺して城とつて。尙も進んで。海洋海戰の
大勝利。大將さんに頼んで暇もろて。出て見れば。シンカラ〳〵。
眞から愉快。立つたフラフと。ならぶ日章。大提號外

●國を愛すなら。命を惜しまず進まんせ。他に遅れたら。日本の恥辱と思はんせ。大隊中隊小隊連隊皆進み。繰出せは。清國〳〵。清國迚ける。捕つた兵器と奪ふ金貨はたんと〳〵

●今度進むなら。北京のもとまで進まんせ。若しも。仲裁するとる斷然謝絶と。捨てしやんせ。神佛に賴んで加護貰ろて。乘り出せば清國〳〵。清國弱い。最期覺悟で。泣て詫入豚尾〳〵

●北京落したら。償金出せて土地とつて。東洋。平和に。帝國萬歳唄はんせ。チャン〳〵坊に談判して罰金とつて。引揚げりや。シンカラ〳〵眞から愉快。祝ふ祝詞に。並らぶ日章。花火ポン〳〵

◎日清の本田ぶし

●平壤略取すりや。敵がヒヨロ〳〵逃げる。逃げりや我兵がドツト追かける。これがまことの本田はんだ

●北京落せば。敵が皆な〳〵降る。降りや我兵がサツサ勝軍さ。これが大和の魂だ魂だ

●いづれ仕舞は。力らが弱る。弱りや支那兵かサツサ負け軍さ。これがまことの損んだ損んだ

●自殺せなけりや。李の身が立ぬ。立ぬはづたよ最初出ろこない。これかまことの清だ死だ

●北京勝利にや。敵國奪い。償を出させて大將大祝。これかまことの祝砲だ祝砲だ

◎日清の丹後ぶし

●所詮かなわぬ。チャン〳〵坊子。あたら命を的にする。彈丸飛し

てポンとうつた

●所詮かなわぬ。清艦數隻。あたら船体的にする。大砲飛してドンとうつた

●入らぬ事して。身を苦しめて。末は自殺の李鴻章。澤山兵士を雇い出した

●北京取られて。泣顔さげて。諸外國にも恥をかく。澤山の入費で貧乏さした

●武威を示して。世に譽られて。日本兵士の勇ましさ。帝國威勢をピンと出した

◎日清の推量ぶし

●支那のエー。推量〳〵。チヤン〳〵は柳の枝よ。ちよいと。さのよいやさア。よいやさいと。ありやさあ。こりやさ。やあとせー。せゑのゑ。ありや推量〳〵

●日本のエー。推量〳〵。兵士は冬至の菜刀。ちよいと。さのよやさのさ。無暗。こりやしよい。南京。實。斬り倒す。よいやさア。よいやさいと。ありやさあ。こりやさ。やあとせー。せゑのゑ。ありや推量〳〵

●支那のエー。推量〳〵。李鴻章は不具の煙管。ちよいと。さのよやさのさ。日は。こりやしよい。立派で。實。外はない。よいやさア。よいやさいと。ありやさあ。こりやさ。やあとせー。せゑのゑ。ありや推量〳〵

●菊のエー。推量〳〵。薫りはいづくへ往とも。ちよいと。さのよ



よやさのさ。末に。こりやしよい。なるはど。實。手をさげる。よいやさア。よいやさいと。ありやさあ。こりやさ。やあとせー。せゑのゑ。ありや推量〳〵

●日本のエー。推量〳〵。兵士は冬至の菜刀。ちよいと。さのよやさのさ。無暗。こりやしよい。南京。實。斬り倒す。よいやさア。よいやさいと。ありやさあ。こりやさ。やあとせー。せゑのゑ。ありや推量〳〵

●支那のエー。推量〳〵。李鴻章は不具の煙管。ちよいと。さのよやさのさ。日は。こりやしよい。立派で。實。外はない。よいやさア。よいやさいと。ありやさあ。こりやさ。やあとせー。せゑのゑ。ありや推量〳〵

●菊のエー。推量〳〵。薫りはいづくへ往とも。ちよいと。さのよ

やさのさ。人に。こりやしよい。好るゝ。實。目出度さよ。よいやさわ。よいやさいと。ありやさわ。こりやさ。やあとせー。せゑのゑ。ありや推量〳〵

●國のエー。推量〳〵。爲めなら妻子は愚か。ちよいと。さのよやさのさ。親も。こりやしよい。命も。實。かへり見ぬ。よいやさわ。よいやさいと。ありやさわ。こりやさ。やあとせー。せゑのゑ。ありや推量〳〵

◎日清のチヨンコぶし

●李鴻章軍令して。雇兵を使ふ。チヨンコ。使やたちまち。逃げてゆく。チヨンコ

●支那は大國と。威張つて見ても。チヨンコ。口と心は裏表て。チヨンコ

●艦は碎ける長城は落る。チヨンコ。果は北京自殺する。チヨンコ

●兵も軍器も。我か手に落ちて。末は北京の城も落ち。チヨンコ

●軍さ勝利で。凱陣あげて。諸外國にも名をあげる。チヨンコ

◎日清のトメヨナラぶし

●支那を攻めよなら。攻めよがでざる。勇氣たゆまず攻めしやんせこんまる。困んまる。こまつた

●豚尾捕うなら。捕り樣がでざる。四方圍ふて押寄さんせ。とんれる。捕んれる。とれるよ

●姑慈斬ろうなら。斬り樣がでざる。日本刀で斬らしやんせ。斬んれる。斬んれる。されるチ

●軍さ止めるなら。止めよかでざる。償金擔保の國を出せ。とんまる。とまつた

●命おしけりや。降參いたせ。詫る敵には手は出さぬ。助ける。助ける。たすける

◎日清のヤッツケロぶし

●清國軍艦攻め討つ時にや。其時や遠慮はいらないよ。ドン〳〵大砲で。ソラやッつけろ

●支那の軍勢見附けた時にや。其時や遠慮はいらないよ。手酷銃砲で。ソラやッつけろ

●敵の陸地に上かつた時にや。其時や遠慮はいらないよ。ドン〳〵進んで。ソラやッつけろ

●北京攻め取り勝つたる時にや。其時や遠慮はいらないよ。嚴敷談判。ソラやッつけろ

●結局談判勝利の時にや。其時や遠慮はいらないよ。十分愉快を。ソラやッつけろ

◎日清のトコショイぶし

●私しや剛いよ。日本の兵士。命ち惜しまぬ勇進にトコショイ〳〵

●假令軍さは。まけても平氣。屢はれ兵士の逃支度トコショイ〳〵

●これから眞實の。軍さになるよ。敵地へ入らねば實が入らぬトコショイ〳〵

●豐臣以來の。我が日の本の。腕を豚尾に味あはすトコショイ〳〵

●四百余洲を。照りかゝやかす。日の丸國旗の勇ましさ。トコショ

## ◎日清の落語

●朝鮮の國では南京の切賣が大變安いうちだが相庭は聞たか「チヽ〳〵聞た〳〵何んでも平壤とかいふ所では山のやうに積んで只一戰（一錢）にまけたろうだ「達子へ〳〵其一戰にまけた南京を日本兵士がドン〳〵勝つて否買つて積んで戻るとよ「ろんなに澤山南京を積んで戻つて何にするのだらう「言はないでも知れた事よ皆な帝國の萬歲（晩菜）にするのだ

●支那の李鴻章といふ爺さんは一時天下の三傑とまで言はれたさうだか今度日本と開戰このかた第一豐島の戰ひに悉く打負け次ぎに牙山の戰ひ平壤の大敗海洋島の失錯と一度ならず二度三度の大負に流石の李鴻章も毎日〳〵泣て居るとよ「ハヽンー夫れで恥をかいたのだナ「ナゼ「泣き面に恥といふだないか

●津村の別院へ來て居る支那の俘虜を見たか「見た〳〵どれも〳〵溝穢子へ御乞食見た樣な奴だ子へ「所か日本は文明國だから仮令戰國のものでも一端俘虜としたからはいつまでも薄穢子へものを着せて置いちやア衛生上よろしくないと衣類も改めお湯にもいれて其上三方の上に鋏と髮剃をのせてこれで髯も剃りまた三ッ組の髮も揃へるかよろしいと與へてやつたが髮剃は遣つたさうだか鋏みと三方は見るもおろろしいと皆な返したとよ「ナゼだらう「平壤の戰ひは三方よりのはさみ討だから

●君今日の大阪朝日新聞の號外を見たかどうも日本兵の膽力は剛氣なものだ子へ義州鴨綠江も何んの苦もなしに向ふへ渡つて奉天府か

ら九連城に進んで今では北京近くへ進んだ樣子だ此樣では今に北京城を乘取つて明治廿八年は是非淸國から償金を取る事になるだらう償金の高は幾等程だらう「さうさ子へ淸國から取る償金なら八億万円か八十億万円か八百億万円か八千億万円か何んでも八臺でなくては收まらない子「ナセ「日淸が八といふから

●平壤の戰ひには第一軍が立見少將第二軍が大島少將第三軍が總督野津中將といふ譯で迚もチヤン〳〵勢の幾等防禦に力らを盡したかちといつて此三軍に向ふて勝ちを占める抔は思ひもよらない譯だが所謂蟷螂が斧に此三軍をむかへて一も二もなく敗軍した上牙山の徹を踏んで今度も澤山武器を捨て逃けたさうだか全体支那の奴は武器を何んと思つて居るのだらう「大方兵器(平氣)だと思つて居るのだらう

●日淸の戰爭に附て此頃第一に能く賣れるものは何だらう「手前でも子へまだ夫れを知らないかソラアノ心齋橋筋八幡筋南へ入丹平といふ足袋屋があるだらうアノ足袋屋の座敷足袋。書生足袋。丹平足袋の三種は賢くも〇〇〇殿下と宮內省の御用を蒙むつた御殿足袋の絹足袋は今度廣島の大本營は元より朝鮮派遣の各貴顯紳士へ多く賣捌のみならず此間の誓文拂にでも心齋橋筋第一番の賣揚高だと「ウン〳〵アノ勘平の足袋か「ナーニ勘平だ子へ丹平だよ「ナーニアノ家は丹平ともいへば勘平ともいふのだ「ナゼ〳〵「アノ家は足袋の種類か四十八余もあつて忠臣膏の本舗だから

◎日淸の二〇加

姿の拵へはチヤン〳〵坊子といふ心組の拵へにて手に鋏を持ち

出て來り

●サア〳〵大變々々牙山や豐島と違い此平壤は大同江を前に扣へ其上三個の堅砦を築き李鴻章麾下の精選にかゝる五千の清兵をもつてこれを守りたればよもや此度は負けまいと思ふに第一が立見少將第二が大島少將第三が野津中將と三方四方から(と鋏をぶち附て)鋏ぶちだ

姿は日本兵士のこしらへにて手に鰯を持ち出て來り

●賢くも我帝國の軍隊は萬國無比の武威を以て豐島牙山の初戰は元より平壤海洋島の陸海両戰に於ても何んなく支那兵を皆殺にいたし此上は旅順口から。義州。奉天府。鴨綠口。天津。北京と段々攻めて目にもの見せん諸隊一鰯めー

姿は新聞の配達といふこしらへにて手に女の笄を持ち脇の下に新聞を挾み出て來り

●アヽいろがしい〳〵此頃の新聞の配達はどいろがしい事はないわい日清事件の電報が多い上に臨時帝國議會の開會があるので實に足も腰もメリ〳〵する樣だイヤろんな事いふて居られぬ「ハイ笄

◎日清の狂言

●これは此度征清軍に從事せし兵士の一人でおじやるが。イヤハヤ敵の清兵の無氣力なるにはズンド驚き入たり。豐島の戰ひもザラリ逃出し牙山の戰ひにもザラリ逃出し平壤でも海洋でもザラリ〳〵とザヽメキ騷いで。いつも逃ける斗りとは笑止千万イヤ何かといふ内最早これは鴨綠江じや。先づ敵の樣子を伺ふて進まんイヨー居るは〳〵我兵の進擊を恐れてか凡七八千も居ると見ゆるはイデ一戰に討

、破つて目に物見せて呉れんエイーエイーヤットナは……皆逃出し居つた「逃るとてやるまいぞ〳〵

◉これは支那の李鴻章が麾下に從ふ雇兵の一人でおしやるが。何が此度の合戰に。豪勇無双の日本を相人に。一度ならず二度三度の敗軍と在つて。迚も常備の兵斗りにては覺束なきより。俄に兵を雇ふとの事に雇はれは致したれど。素より練習た事もなき戰の進退を知らうはづもなく。よしまた聊か知つた所で。迚も日本兵と戰ふて勝れる筈もなければ。わちらへいては程よく逃のびこちらへいては首尾よく落ちのび何んでも彼でも逃げまわつて居れば夫れでよいとヤすものじやイヤ何かといふ内最早日本兵が押寄せて參るつたと見ゆる早く逃げねば「なるまいぞ〳〵

## ◉日清支那墮落經

ヤンレー東西、お集まりの檀那方へ、笑樂坊主が申上ます、お經の文句は、今度此度、日清事件の、騷ぎの發端、どうした種にて、誰れが詩たと、尋ねて見るのに、(カツポン〳〵〳〵)國は朝鮮、時の執權、閔の一族矢鱈にはびこり、ろれに從ふ多くの役人、上を見習ひ下を虐げ、重歛苛税を無闇に取立て、質朴愚直の農工商等も、苦しまぎれが怒りと變じて、一時に破裂し刀槍鐵砲、或は鋤鎌、てん手に提さげ、全羅地方の要所に籠りて、其勢積つて二千三千、馬鹿にせられぬ一揆の勢ひ、困つたものだよ(カツポン〳〵〳〵)ろこで此奴等自ら稱して東學黨とは當惑千萬、天に代つて姦官賊吏を、誅罰するとて地方の官署を、メチヤ〳〵毀して、縣令を殺して郡吏を縛つて、牢屋へ押込め金銀衣食は分捕り功名、手當り次第に亂暴し

たので、此事忽ち政府に聞えて、聞た政府も周章狼狽、兵士を差向け鎮めて見たれど、勝に誇りし東學黨勢、中々手強く味方が敗走、始末におへねエ、(カッポン〳〵〳〵)流石の閔家も青菜に鹽にて、恐れ戰きブル〳〵ものにて、泣かんばかりの氣色を見てとり、支那の遣官袁世公使は、深切ごかしに忠告するやう、彈丸銃器と兵隊貸すから、夫れにて彼奴等を殄滅し給へ、素より朝鮮は中華の屬邦、傍觀坐視する所でないなど、胸に一物野心を藏めて、柔和に見せかけ、ウマ〳〵欺めたり、ヤレ〳〵氣の毒、(カッポン〳〵)ウカと乘つたが閔の泳駿、地獄で佛に逢ふたる心地で、嬉れし涙を垂して袁世凱得たりかしこし、早速兵隊繹び、再拜九拜助けを求めた、袁の世凱得たりかしこし、早速兵隊繹山送ると、之を聞たる東洋の雄邦、亞細亞の盟主が、信と義とには一歩も讓らぬ日本魂、何の猶豫も荒海乘ッ切る、數艘の軍艦兵士を滿載、向ふ處は仁川港口、旭日旗章は朝日に輝き、立派なよだよ、(カッポン〳〵〳〵)規律の正しき盛んの軍勢、威風凜々あたりを拂ふて、勇み進んで京城に入込む、一足後れた支那の弱兵、居所にまごつき、仕方がないので牙山へ陣取り、近傍民家を荒して廻るは、東學黨より餘ッぽど惡黨、我儘氣儘の遣りたい放題、朝鮮の爲には不爲にころなれ、爲にはならない厄介兵隊、ろれゆゑ閔氏も今更當惑、ろれに引ッ替へ日本の勇兵、弱きを扶けて暴きを挫くは、世界獨歩の義俠の本領、茲に至つて永年霧中に、迷ッて居たりし朝鮮有志も、始めて奮發國王殿下に、いろ〳〵建白早速御裁可、大院君をば御苦勞ながらも、萬事の總裁、姦臣賊吏を殘らず免黜、閔氏は遠島、ヤレ〳〵い、氣味、(カッポン〳〵)續いて弊政改革始まり、日本仕組の政府の制度が、着々緒に就く、然るに頑冥固陋のチャン〳〵

燒餅起して朝鮮領土は、己等の屬國、日本の干渉不都合なんどと、此方に對して敵意を現はし、ドン〳〵兵隊、牙山に送りて軍の支度を豐島沖にて、見認めた軍艦さうはさせじと蹤然一發、高陸沈沒操江分捕、廣乙自燒に濟遠遁走、一千餘りのチャン〳〵坊主が、ブク〳〵沈んで殘ッた奴原、彗々生捕り日本へ送還、是れにはいッかな豚尾の老爺も、始めて目が醒め閉口するかと、思つて居たのに、性懲りもなく牙山の陸兵、成歡驛にて防戰するとは、去りとは大馬鹿（カッポン〳〵〳〵）大島旅團が銳どい砲擊、爭でか敵せん、散々敗北、五百に餘れる死人の天窓は、時節柄とて蔓の付たる、南瓜や西瓜が、あちらにコロ〳〵、こちらにコロ〳〵、山も野原も一夜の內にて、瓜の畑と變じたをかしさ、此くと聞いたる支那の政府は、驚ろき桃の木、山椒の木の芽か、夜の目もあはない、下らぬ人足金にて買出し、兵士に仕立て、鐵砲かつがせ、義州道より平壤に推し寄せ、四萬の天兵、屬國危急を救ひの爲めなど、大きな法螺にて、愚民を欺むき、金銀兵糧勝手に取揚げ、相もかはらぬ亂暴狼藉横着ものだよ、（カッポン〳〵〳〵）日本の軍隊手筈を定めて、四方を取卷き烈しき攻擊、山河に轟き天地を動かし、暫しの間に忽ち落城、豚の親分四五疋生擒り、小豚の死傷は數も限りも、知れない程だよ、夫れにも又もや第二の海戰、四艘は沈んで三艘は燒れた、勝に乘じて益々追擊、渤海蹂躙、天津粉碎、日ならず北京の城下に攻め寄せ、否應云はせず兜をぬがせて、百万兩の罰金出させて、東洋の英雄亞細亞の豪傑、世界第一李鴻章など、世間知らずに威張た老爺の、生肝引きぬき、（此處義太夫入り）（李鴻章とてお情けは仇に返しはせぬものをだましに攻め來る日本兵迷化の力もあるならば可愛

とタッタ一言のと」年々日本に貢を出せさて、四百餘州の大きな身躰の、汚れた垢をば曹達で落して、石鹸で研いて清水で洗つて、日本の屬國清唐うれしい、歐米諸國の羨やむやうなる、美男に仕あげて、獨逸が英露でも、指でもさしたら、き、はしねエと、威張返して凱歌を唱ふる、日本萬歳、日本の光は世界に輝やき、日本の威風は四海を靡かす、誠に目でたい今度の出來事、是から後には歐米諸國も、日本と聞たら南無阿彌陀佛、支那と朝鮮我領邦連外境〳〵、

（カッポン〳〵〳〵〳〵）

## ◎日清のヤンレぶし

●支那のサアエ、今度の其の風聞は扨もめづらし新聞ばなし。場所は平壌と黄海附近。丸い日章に朝日の旗は。音に響きし。日の本兵士。數多支那兵の堅むる中を。おめずおくせず進みし勇は。東洋發育の忠勇無二と。歐米諸國の皆とり沙汰よ。分けて烈しき其働きは比叡松島西京丸と。今日も翌日もの噂にのこる。夫れに引かへチヤン〳〵坊子。豐島牙山の手並に凝りず。またも平壌と海洋沖で、初度の恥辱をとりかへさんと。海にや水雷山には諸壘。野砲大砲さも嚴重に。防き備へてかためはすれど。これをものとも思はぬ日本。陸は三方四方に分かれ。海は諸艦の列調へて。何んの苦もなく水陸攻めりや。陸は平壌の諸壘を碎き。海は諸艦を海底に沈め。死せし支那兵其數しれず。日本兵士に死傷は稀れよ。これも偏に我皇國の聖威高きと二ッは諸士の、忠勇無二の働きなりと、戸毎々々に國旗を立て。陸と海との大捷を祝す。祝ふ祝酒の醒ざる内に。またも愉快の我大捷は。支那と韓地の國境なりし。海を渡りて獻地に進み。

虎山其他の敵地を占めて。軍器分捕り頗る多く。尙も進んで北進なせば。今に天津北京も攻めて。償を收めて凱歌を奏し歐米諸國に我か日の本の。武威を示すは愉快なり

編者雨廻家狸遊謹で敬ふて尊みかしこまつて大方諸君に御愛顧の御禮と大當りの御披露を此所に於て聊か述べ奉る可しとの嚴命を名倉昭文館主より聞た……事も何にもなけれど其所がソレ例の持つた病の腹に毒のない貯へ氣のないホン見ねたむきのホガラカ人間といふ譯で其實本編版元の名倉氏なんどは身體に似合ない大膽先生で既に前編の日清事件大流行諸藝大全の如きも他の出版商に魁けて出版したのでイヤ賣れたとも〳〵初版は忽地其日に品切二版三版は同業者が取り勝ち四版五版が他府縣の積出しで六版七版が東京の注文とイヤモ實に當るも當るも非常の大當りで三十五貫目入の金塊は確乎に四十箱位積上げて居なから……其所がソレ身體の小さい割に膽の太い先生ですから容易に儲かつた顏付は見せず……時に中村氏今度の日清事件大流行諸藝大全は思の外大當りでありましたから何うか二編を急に編つて貰い度いと……何うでせう諸君は御存じありませんが中々此名倉昭文館の主人が思ひの外だの意外位の大當りで二編を出版する人ではありませんのですイヤ實ホンとにさうです此お數言の中村が保證する限りは間違はありません……所で今度は前の諸藝大全の大當りを祝し且つ日本全勝の大捷利を祝し他の出版商の調らべの附かない當時有名の落語家諸氏の傑作をあつめ尙日本の大砲の支那艦体に大當りに當りしと前編の大當りと本編の大當りに當る延喜を祝して扨この本編の題號を大當り新歌大全となしたる次第にて是れ全く大方諸君の我全勝を祝し給ふの余り前編の御

愛顧厚きによりしと編者の喜び一方ならず且つ版元の喜びも序に敷多て爰に御禮を申し尚本編と共に前編の御愛讀を祈り入候最一ッおまけに版元の昭文館は引續日清事件の落語集の面白いものと明治廿八年の第四回内國勸業博覽會の大會を當込大阪名所獨案内の編輯を小生へ依頼せられたればこれまた本編同樣出版の上は御愛讀の程豫告致置候

余り長口上となりしお斷に十八番の都々逸を左に

雨廻家狸遊

●戰地の軍人へ寄贈する物品の箇條へ更に眞綿を加へられたから此間も松屋町本町南へ入岩崎万藏の店へ眞綿製の綿子と外の綿類を買いに往たがアノ家は勉强する丈に代呂物はイヽが價はかたい子「イヤ已れが買ったのは平野町の淀屋ばし東入綿屋で岩崎三ッ菱堂といふ家だかアノ家でも綿類は中々勉强するが價はすこしもまけないで强氣にかたいよ「おまへ方は二人りとも其譯をしらないかアノ二軒とも堅い筈だ「ナセ「どちらも岩崎だから

●君聞たか今度愈々北京も我兵の略取する所となって十百億万円の償金と〇〇の地を東洋平和の擔保として日本へ取る事になったさうだか其祝としてキリンビール百万ダスと若みどりといふ美髮香水五千万ダスを戰地の兵士へ送つたものかあるさうだかビールは兵士に適當だか髮の毛をふやし又はのばせを引下げ。ふけをさる妙藥の若みどりを戰地に送つたのはどふいふ譯だらう「夫れを知らないとは余程茫然だ「ナゼ「キリンといふものは太平の收まる御世に出るもので殊に若みどりもキリンビールも高麗橋四丁目に有名な明治屋に賣るものたから明らかに治る時には適當のものだ

# ◉日清おか支那軍歌

## 退軍の歌

一

●逃げよ逃げよ皆共に。スタコラヨイヤサとかけ出せよ。どうせ弱さや負けなるぞ。命取られちや堪らない。命あつての物種ぞ。恥も外聞も入るものか。早く負へしかけるべし

二

同

●逃げよ逃げよ皆共にスタコラヨイヤサとかけ出せよ。縦ひ弱いと云はりやうが。腰拔兵士と笑はりやうが。日本人には叶はない。首を切られちや命なし。若も命のない時は。何の樂みあるべきや。鉄砲で打たれぬ其中に。人にかまわず逃るべし

三

同

●逃げよ逃げよ皆共に。スタコラヨイヤサとかけ出せよ。給金渡らず錢はなし。物をも食はずに腹へらし。おまけに前は敵なるぞ。ウカ〳〵して居りや首コロリ。こんな馬鹿氣た事はない。こんな詰らぬ事はない。何所の何兵衛に義理やある。命ある中逃る可し

四

同

●逃げよ逃げよ皆共に。スタコラヨイヤサかけ出せよ。元我々か出て來たは。命を捨る爲ならず。ホンの些細な日當で。云はゞ人足同樣ぞ。國の爲とは何の事。夫ぢや約策違いなり。今更いふても無駄なれば。何でもかまわず逃る可し

五

同

●逃げよ逃げよ皆共に。スタコラヨイヤサとかけ出せよ。我れはチヤン〳〵先方は。天下晴れての人間ぞ。殊に鉄砲も上手なり。殊に刀も斬れるなり。迚も我等の腹腕で。日本に勝やう筈はなし。苦しい

思ひをせぬ中に。逸足早く逃る可し

## ◎日清の劔舞

●盛殺虎山數万兵（アウサツスーコザンシー スウマンノーヘイー）吟士アウサツスーと吟する時舞士両足を開き太刀を上段にかまへ敵の方を眞向割になす躰勢をなす可しコザンノーの聲にて右方に一度斬る形ちをなし次に上体を左方に轉しまた一度斬る形ちをなすスーマンノーと吟する時き右足を左足の傍によせ直立して両手を廣げ敵の大兵の形容をなすヘイーと吟する時また右足を廣く開き太刀を上段にかまへて前面に一回斬る形ちを行ふ

●腰間一劔血痕腥（エウカンノーイツケンシー ケツコンーナマクサシー）吟士エウカンノーと吟する時舞士両足を揃へて屹立し右手に持てる劔を腰鞘に添へ一旦此姿勢を保ちたる上又忽地劔を前面を突出すイツケンーの聲にて右拳を胸前に持來り劔刀を打詠めや、此形ち保ち血痕の聲にて右手を下げ劔刀を袴の左褄にて一回之を拭ひ上体を少しく左方に俯すナマクサシーと吟する時上体を起し両足を揃へて屹立し劔刀を鼻邊に持來して之を臭く狀をなす

●勇擊憤進凱歌聲（ユウーゲキーフンシンー カイカノーコエー）ユウーケキと吟する時き劔を鞘に收め両袖を卷あげ二三歩前に進み直立して前途を見る形容を示しフンシンーと吟する時また劔を拔き下段にかまへ二三度禦に斬り迫りガイカノコエーと吟する時劔を右手に持ち右方に高く差上て萬歳を唱ふる形を示す

●我軍全勝拔北京（ワカグンーゼンセウー ペキンーナーヌクー）ワカグンーと吟する時き左手をかためて我胸間を打ちゼンセウーと吟する時き左手を左方の上に

開き右手は劒を持たる儘下の方後斜に下げペキンーチーと吟する時更に上段にかまへヌクーと吟する時き劒にて斬り下ける形ちを示し劒を收む

## ◉日清の詩集

### 聞海戰大捷有作

押始戰爭攻擊頻。海洋島畔浪翻銀。我呼萬歲揚々進。彼擧千兵悄々淪。火焰渦邊猶勵氣。砲烟蔽處始忘身。龍宮繁劇事堪察。籍面頓增歸化民。

評者曰　清豚入海中化河豚乎

### 樂史子

見ニ捕虜一

揃着御堂豚尾坊。成山群衆笑唐々。形如乞食汚何感。心似留生恩固忘。宜矣大同江忽退。尤哉平壤廓難防。我因仁惠養奴等。厄介長於辮髮長。

評曰　不得不長歎

### 聞軍人貴族情況有作

男子本懷疆戰地。身全職分軍人事。輕生甘死是無佗。我國爲君御爲。

敵愾之心令衆駭。因兄戰死一層夥。希望偏在滅支那。欲企從軍刀劍買。

忽聽名譽之戰死。慟傷思遣其心裏。妻君廿歲貌如花。不惜切除雲鬢美。

金城鐵壁牡丹臺。哀爲日兵被叩頭。將卒死傷過其半。行長冥土擧三杯。

◉日清の畫探し

ウヌチャン〳〵
坊子と
日本の
兵士に
打懲されても中々
狡猾な豚尾坊子な
ればたしかに二ッ位はものを隠
して居るから諸君の活眼で見附出て下さい

明治廿七年十一月[illegible]日印刷
明治廿七年十一月十[illegible]日發行

日清事件大流行新歌大全與附

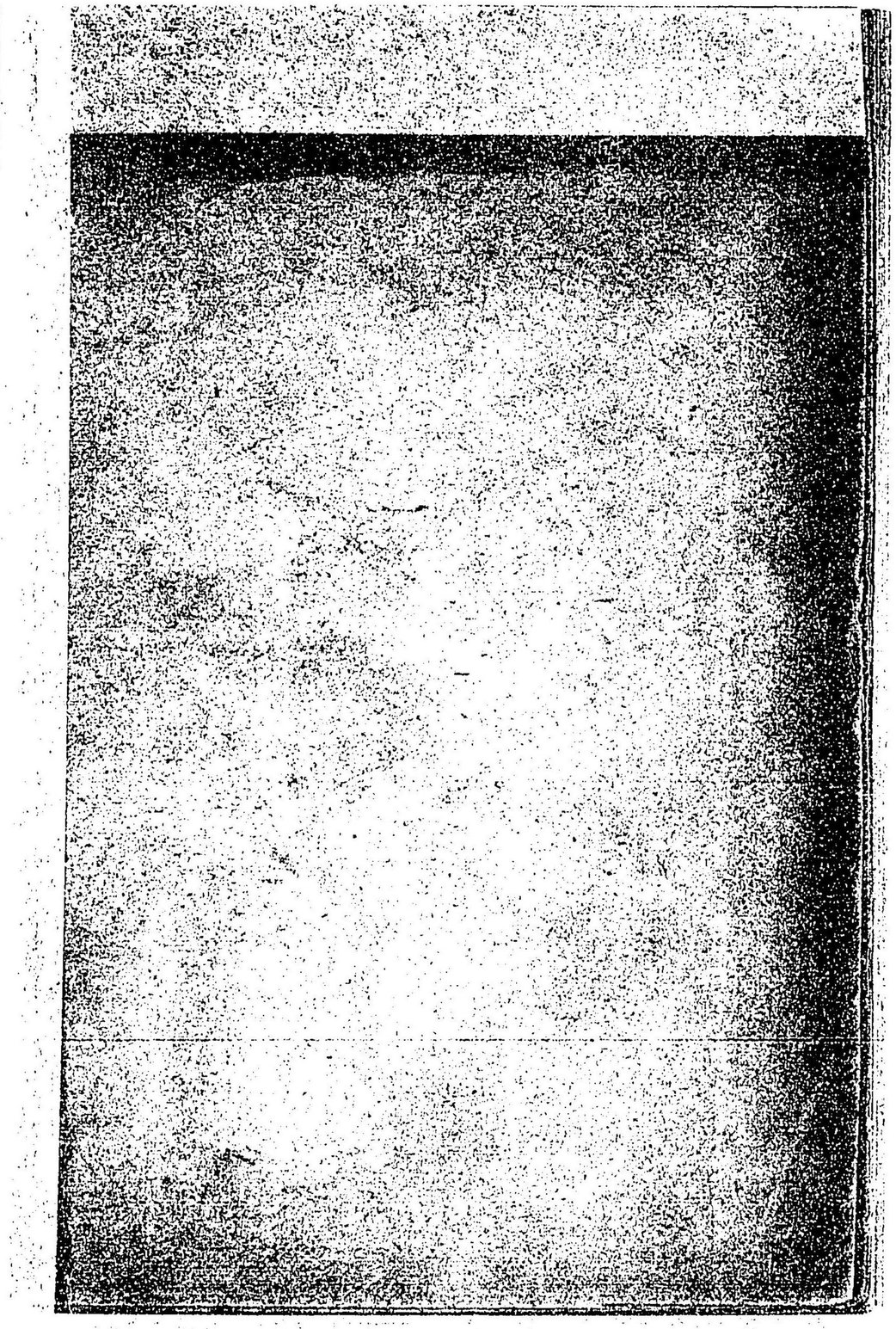
定價金十二錢

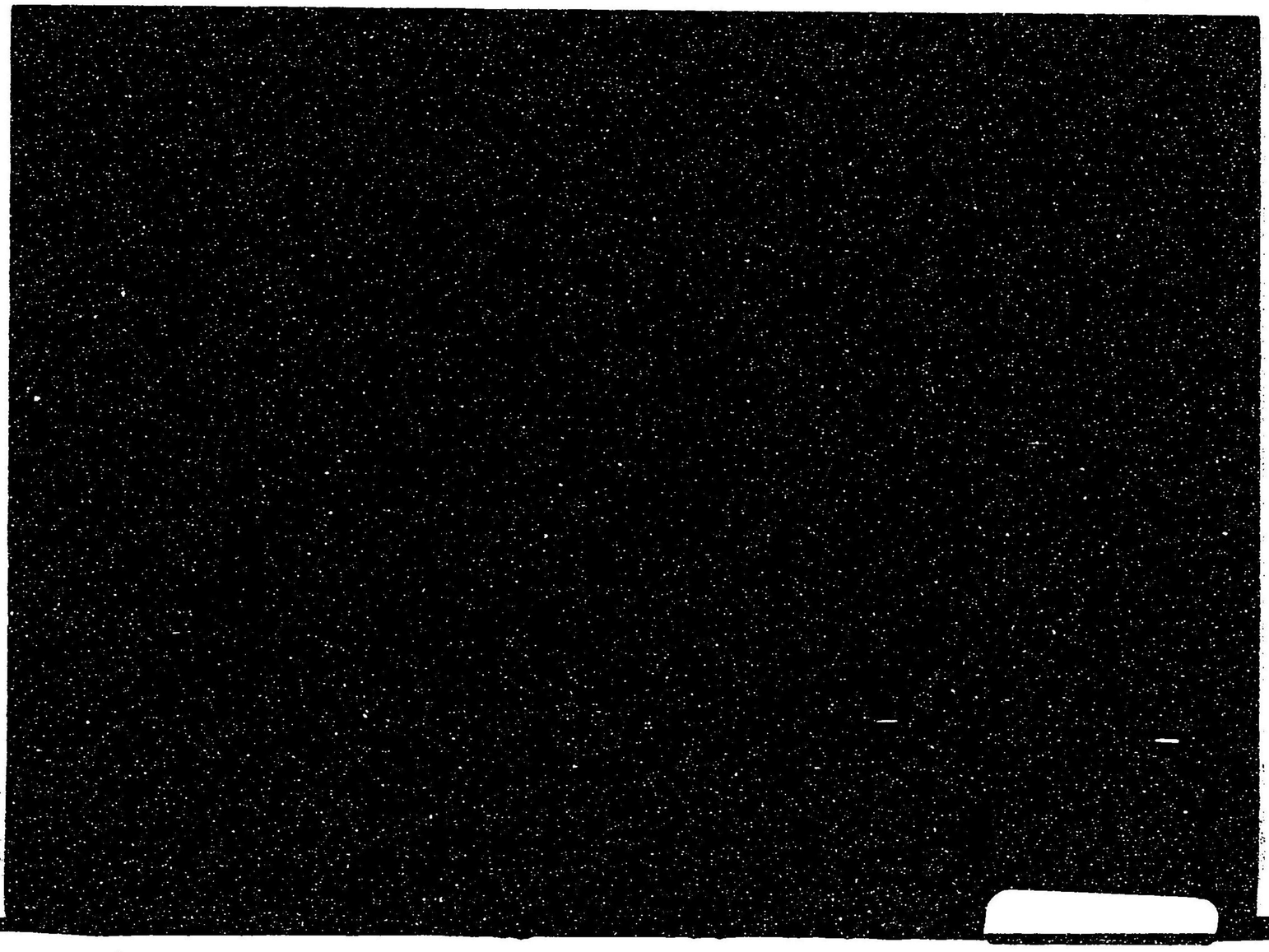
編輯者　中村善平　大阪市南區鰻谷中之町百六十二番邸
發行者　名倉龜楠　大阪市南區玉屋町十三番邸
專賣者　名倉昭文館　大阪市南區周防町相合橋筋北入東側
印刷者　吉村武右衛門　大阪市東區上難波南之町廿四番邸
發賣者　松浦弘文堂　大阪市南區四ッ橋南東詰南入
發賣者　小野春篁堂　大阪市南區心齋橋筋淸水町角
製本發行　元　名倉昭文館　大阪市南區周防町相合橋筋北入東側


版權所有

# 大阪賣捌書林

矢島蕉堂　山下文行堂　大岡藤盛堂
田中太右衛門　大華堂　岡本增進堂
鳥井正英堂　温知堂　井筒寅次郎
學齡館　平野藤七　中川芳文館
岡本仙助　圓井芳太郎　西村郁文館
三木直入堂　矢部外次郎　家村吉兵衛
高辻清助　庄司文會堂　西邨文英堂
此村彦助　高田治兵衛　中島イシ
須田重助　駒川書店　今中光文堂
中村正兵衛　柏原圭文堂　北村菅善堂
西田順天堂　竹柴堂
菅原好文堂　飯田書店
松本平兵衛　梅村安兵衛





特63
343

日清事件 大當新歌大全

国立国会図書館

074397-000-6

特63-343

日清事件大当新歌大全

桂枝雀／著

M27

CEI-1649